

スポーツと地球環境の将来に関する研究

The future of sports and environment

1K07B098-4 櫻木 澄

指導教員 主査 石井 昌幸 先生 副査 寒川 恒夫 先生

【はじめに】

近年、最も社会を賑わせている話題の一つに「地球環境問題」がある。世界各国で地球環境問題への取り組みが行われる中、スポーツ界でも地球環境保全を推進する試みは活発化してきている。しかし、このスポーツ界の活動には問題点や矛盾が存在する。そこでこの論文ではこれらを指摘し、今後の展望を提案する。

【第1章】

地球環境問題は、地球温暖化、オゾン層破壊などの幅広い現象を指す。これらに対する国際的な会議や条約、各国の法律などの地球環境問題対策は数多く存在する。国際社会としては、「国連人間環境会議」を1972年に開催して以降、地球環境問題に対する取り組みが本格化した。日本の対策は、1993年に「環境基本法」が制定されて以降、社会的に環境面への配慮が為されるようになった。その風潮は高まり続け、現在ではエコポイントやエコカー減税などのような地球環境保全を推進する試みがされている。

【第2章】

スポーツ界は持続可能な開発という共通の理念に基づき、地球環境保全活動を推進している。スポーツ界がこれを行うのは、地球環境問題の悪化により、水泳やスキーなどの実施が不可能になる競技があるからである。1990年以降にスポーツ界の地球環境保全活動は本格化した。当時のサマランチIOC会長がオリンピックムーブメントに地球環境保全を加えることを提唱し、「スポーツ・文化・環境」を三本柱としたからである。幅広いスポーツ界の取り組みの中から4つの事例を挙げたことにより、地球環境保全活動の世界的な広がりが明確になった。

【第3章】

世界各国のスポーツ界の地球環境問題への取り組みは、主にIOCの指針や決定事項を参考にして行われている。そこでここではIOCに焦点を当てて、取り組みの指針や歴史を明らかにした。また、IOCの地球環境問題対策の柱であるIOCスポーツと環境世界会議、オリンピックムーブメントアジェンダ21、IOCスポーツと環境・競技別ガイドブックに言及してIOCの地球環境問題への取り組みを明確にした。これにより、IOCの地球環境問題に対する強い危機感と地球環境保全活動への意識の高さが明らかとなった。

【第4章】

JOCはNOCとして、IOCで決議されたことや推進されている活動を日本国内で実施している。JOCの取り組みの指針と歴史、JOCの地球環境問題対策を担っているスポーツ環境専門委員会や、加盟団体などの諸活動について明らかにした。IOC同様、JOCも地球環境問題を重く受け止めており、日本スポーツ界に対する地球環境保全活動の啓発を推進している。

【第5章】

スポーツ界で最も大きな大会であるオリンピックでも、IOCを中心に地球環境問題への対策を行なっている。大会ごとに様々な地球環境問題対策が講じられてきた。これらの対策と過去に発生した地球環境をめぐるトラブルなどに関して言及し、競技大会前のスタジアムやスキー場、選手村の建設、またインフラ整備などのオリンピックの地球環境問題対策における問題点を指摘した。

【第6章】

地球環境に悪影響を及ぼすとされるスポーツにゴルフやF1、スキーなどがある。このゴルフが2016、2020年のオリンピックの正式種目になったことから、IOCを始めとするスポーツ界の地球環境問題への取り組みは自身のイメージ向上のツールとしているのではないかと考える。

スポーツ界と地球環境が共存していくためには「個人の意識を徹底すること」と「環境負荷を極限まで減らすこと」が必要であると考ええる。

【おわりに】

これまで述べてきたスポーツ界の地球環境問題対策の問題点や矛盾、またこれらに対する今後の方策をまとめた。これまでのスポーツの発展は地球環境の享受に因るものに他ならない。その発展の過程において、スポーツ界は地球環境に負荷を掛け続け、また破壊し続けてきた。これからはこの負荷を極限まで減少させ、世界中のスポーツに携わる一人ひとりが地球環境のために行動を起こす必要があることを強調した。

最後に、スポーツ界の世界中への影響力に言及した上で、スポーツ界から地球環境問題対策を啓発・実践をスポーツ界の外側に呼び掛ける必要があると考える。そして、地球環境問題対策活動が当然のものとして世界各地に存在し、スポーツに無関係な者も含めた一人ひとりが地球環境に愛着を持てる世界となることが理想的である。